

▼ゼスラン錠・▼ニボラジン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 メキタジン mequitazine 【分類】 抗ヒスタミン剤
【単位】 ▼3mg/錠
【常用量】 ■気管支喘息：1回6mg1日2回
■アレルギー性鼻炎等：1回3mg1日2回
【用法】 1日2回
【透析患者への投与方法】 設定されていない (1)
【その他の報告】 おそらく減量の必要はないと思われる (5)
【保存期 CKD 患者への投与方法】 設定されていない (1)
【その他の報告】 おそらく減量の必要はないと思われる (5)
【特徴】 フェノチアジン誘導体の抗アレルギー剤 [抗ヒスタミン作用を有する].
【主な副作用・毒性】 肝障害, 抗コリン作用, 血小板減少, 眠気, 倦怠感, 消化器症状など
【吸収】 食事の影響を受けない (1)
【F】 おそらく低い (Ylitalo P, et al: Int J Clin Pharmacol Res 9: 305-8, 1989)
【tmax】 5.67±1.68hr (Ylitalo P, et al: Int J Clin Pharmacol Res 9: 305-8, 1989) 6.7hr (1)
【代謝】 尿中代謝物はモノ水酸化体, S-オキシサイド, N-オキシサイド及びグルクロン酸抱合体 (1) 代謝には CYP2D6 が関与する (1) モノ水酸化体静注時の活性は未変化体と同等 (1)
【排泄】 尿中未変化体排泄率 0.46% [小児, 24hr まで] (1) 尿中回収率 10.9±3.3% [未変化体+グルクロン酸抱合体, 72hr まで] で 46%がフェノチアジンのグルクロン酸抱合体 (Ylitalo P, et al: Int J Clin Pharmacol Res 9: 305-8, 1989) 尿中回収率 20% [48hr まで] (1)
【CL】 単回投与データより CL/F : 20~30L/hr (5)
【t1/2】 45±26hr (Ylitalo P, et al: Int J Clin Pharmacol Res 9: 305-8, 1989) α相 5~6hr, β相 30~40hr (1)
【蛋白結合率】 60~80% [ラット] (1)
【Vd】 BBB はほとんど通過しないとされているが, 眠気が出現する (1)
【MW】 322.47
【透析性】 資料なし (1) データが少なく判定困難であるが, 著しく除去されるタイプの薬剤ではないと思われる (5)
【O/W 係数】 71.7 [クロロホルム/水系, pH6.99] (1)
【更新日】 20170121

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。